

令和2年度・木津町区防災大会

「歴史から考察する木津の洪水と避難場所」

講演者：木津の文化財と緑を守る会
岩井 照芳 会長



歴史から考察する木津の洪水と避難場所

平成2年8月2日

木津町地域防災研修会

I 忘れられた木津の災害

1 江戸時代の木津は7年に1度被害にあった水害の常襲地帯

- ⇒ 150年間家が流される大きな水害がないので忘れている
- ⇒ 反面産業としては水運で栄える ⇒ 古代は泉津 大河川港 上津・中津・下津
- ⇒ 明治29年鉄道の開通で水運利用が徐々に無くなる

2 木津の水害 洪水は大きく分けて3つの種類に分類

- ① 木津川本流の洪水 堤防は川喜前が本堤防
- ② 支流や池の決壊（井関川・鹿川） ③ 内水氾濫（木津川の水位の上昇 反田川・小川）

II 木津の外水氾濫と内水氾濫

- 1 木津川本流の洪水 ⇒ 木津川の特徴は降雨面積が大きい 相楽郡、伊賀、大和
木津で降らなくても上流での大雨の場合⇒ 木津で洪水の危険性

A) 江戸時代の洪水対策

江戸時代同じ所で堤防が切れる ⇒ サンプラザから国道24号西側の間
竹を植えて（長藪）水流の力を弱める ⇒ 幕府が藤堂藩に命じた

B) 江戸時代何度も大洪水

- 1) 有名な正徳2年（1712）の洪水 流死100人余 前代未聞の大洪水なり
⇒ 水の高さは御霊宮鳥居の貫（ぬき）まで達した洪水（正覚寺の洪水供養碑）
- 2) 享和2年（1802）の洪水 7月1日昼頃 加茂の舟屋が洪水 2時ごろ木津洪水
⇒ 川口屋（川喜）が祝園まで流された

2 支流（井関川・鹿川）の決壊⇒ 一番最近の洪水（忘れている洪水）

- A 家が流されるような大きな水害 慶応4年（1868）5月11~12日に大雨
井関川と鹿川が氾濫 合わせて22ヶ所の切れる

- B 支流でも大きな被害 ⇒ 長福寺が流される→ 社町の銭湯は長福寺の跡

C 聞き取り調査 (1979) ⇒ 右岸より左岸が低い 出垣内に流れる ⇒ 20 年前洪水
⇒ 出垣内 (中ノ町) 南出垣内 西出垣内

D 地名から氾濫の証拠

⇒ 河原という地名 → 井関川に沿って川原という地名が存在 川原開墾が判明

井関川左岸 ①天神川原 (消滅した地名) ②川原町 (自治会名) ③小字瓦谷 (河原田)

井関川右岸 小字川原田 (バス停 読み方かわはらだ)

3 内水氾濫 (一番心配)

→ 木津川の水位上昇 → 樋門を閉める (小川、丹田川等)

→ 今までの遊水池 (水田や川喜前の河川敷) が減少

→ 雨水が氾濫 低い土地は大雨の時常に床下浸水

II 避難場所を考える

1 昭和 28 年南山城大水害の場合 → 木津はあまり降らない

⇒ 降雨量測れない程の雨量 → 木津川は氾濫寸前 木津の住民は皆避難

2 洪水の種類によって避難場所を選定

市役所 災害対策本部を設置、警察も来る、近所の自治会から殺到 定員オーバー

木津小学校 3 階しか使えない 近所の自治会から避難

いずみホール 木津川・井関川とも氾濫の場合は危ない 近所の自治会から避難

東部交流会館 木津川氾濫の場合は危険

城山台小学校 一番安全

2 今日の結論

① 木津は 150 年間洪水が無かったが、「必ず起こる」を忘れてはならない

② 避難は早くする 避難途中で被災もありうる

③ 洪水の種類によって避難場所を選定 間違えれば避難先で被災





サンプラザから長藪



御霊神社鳥居



正覚寺の門



正覚寺・洪水供養石佛



川喜・正面



鹿川・大阪橋から田中神社方面



井関川・極楽橋から北方面



井関川・大正橋から
三丁目(出垣内)



いずみホール北側

